

## 最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

### 令和4年度1月号

#### ○ 概要

- (1) 令和4年度1月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,374億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+2.7%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,657円（伸び率▲2.5%）であった。調剤医療費の内訳は、技術料が1,699億円（伸び率+7.7%）、薬剤料が4,662億円（伸び率+1.0%）、薬剤料のうち、後発医薬品が930億円（伸び率+0.7%）であった。（→P.4,5）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,599円（伸び率▲4.8%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.81種類（伸び率+0.1%）、27.5日（伸び率▲2.2%）、72円（伸び率▲2.8%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料3,695億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+11億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の666億円（伸び幅▲1億円）で、伸び幅が最も高かったのは62 化学療法剤の+130億円（総額250億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	3,695億円 (+11億円)	39 その他の代謝性 医薬品(666億円)	21 循環器官用薬 (574億円)	11 中枢神経系用薬 (515億円)
0歳以上 5歳未満	16.9億円 (▲0.1億円)	44 アレルギー用薬 (5.6億円)	22 呼吸器官用薬 (2.9億円)	61 抗生物質製剤 (1.8億円)
5歳以上 15歳未満	82.0億円 (+6.3億円)	44 アレルギー用薬 (27.3億円)	11 中枢神経系用薬 (25.4億円)	39 その他の代謝性 医薬品(6.4億円)
15歳以上 65歳未満	1,359億円 (+33億円)	11 中枢神経系用薬 (257億円)	39 その他の代謝性 医薬品(253億円)	21 循環器官用薬 (178億円)
65歳以上 75歳未満	835億円 (▲41億円)	39 その他の代謝性 医薬品(179億円)	21 循環器官用薬 (147億円)	42 腫瘍用薬 (144億円)
75歳以上	1,402億円 (+14億円)	21 循環器官用薬 (247億円)	39 その他の代謝性 医薬品(226億円)	42 腫瘍用薬 (178億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,657円（伸び率▲2.5%）で、最も高かったのは北海道（11,608円（伸び率▲1.8%））、最も低かったのは佐賀県（8,318円（伸び率+0.4%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは佐賀県（伸び率+0.4%）、最も低かったのは沖縄県（伸び率▲9.8%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） <sup>注）</sup>	83.7 %	+1.8 %
薬剤料ベース	19.9 %	▲0.1 %
後発品調剤率	80.6 %	+1.8 %
（参考）数量ベース（旧指標）	59.7 %	+0.8 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+0.7 %	+17.4 % (20 歳以上 25 歳未満)	▲6.4 % (70 歳以上 75 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.9 %	26.3 % (95 歳以上 100 歳未満)	10.9 % (10 歳以上 15 歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	83.7 %	87.8 % (100 歳以上)	78.9 % (10 歳以上 15 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	793 億円 (+7 億円)	21 循環器官用薬 (237 億円)	11 中枢神経系用薬 (143 億円)	23 消化器官用薬 (92 億円)
0 歳以上 5 歳未満	6.2 億円 (+0.6 億円)	44 アレルギー用薬 (3.0 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.9 億円)	62 化学療法剤 (0.5 億円)
5 歳以上 15 歳未満	14.3 億円 (+1.7 億円)	44 アレルギー用薬 (7.7 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.9 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.8 億円)
15 歳以上 65 歳未満	280 億円 (+11 億円)	21 循環器官用薬 (67 億円)	11 中枢神経系用薬 (65 億円)	44 アレルギー用薬 (33 億円)
65 歳以上 75 歳未満	176 億円 (▲11 億円)	21 循環器官用薬 (66 億円)	11 中枢神経系用薬 (22 億円)	23 消化器官用薬 (21 億円)
75 歳以上	317 億円 (+5 億円)	21 循環器官用薬 (104 億円)	11 中枢神経系用薬 (54 億円)	23 消化器官用薬 (45 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,409 円	1,830 円(北海道)	1,153 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲4.4%	▲1.5 % (島根県)	▲11.2 % (沖縄県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	83.7 %	90.2 % (沖縄県)	79.8 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.9 %	23.1 % (鹿児島県)	17.2 % (京都府)
後発医薬品調剤率	80.6 %	86.7 % (沖縄県)	76.3 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	59.7 %	67.7 % (沖縄県)	56.1 % (東京都)

## 〔利用上の留意点〕

### 分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和4年度1月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。